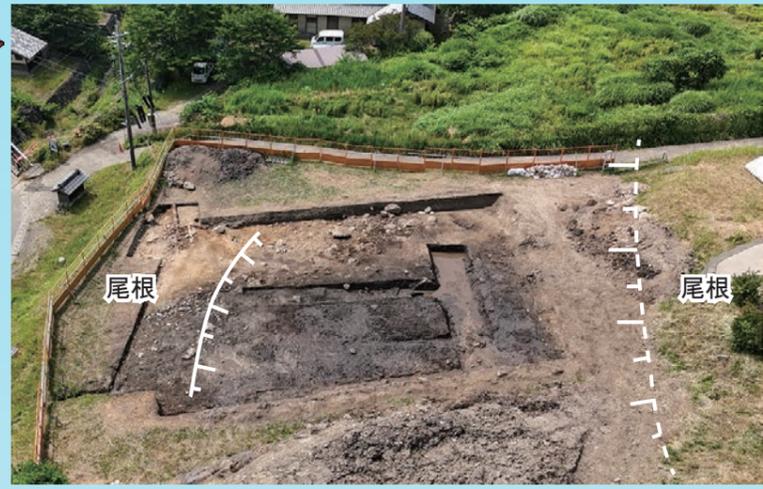


様々な時代の土器が出土！！

調査地の中央では南北方向に伸びる窪地くぼちが見つかり、縄文時代から鎌倉時代までの土器が出土しました。

上流からの土砂が堆積したことによって12世紀には埋まり、耕作地となったことがわかりました。



黒い部分が窪地（北西から撮影）

Point!
窪地の中にまとめて捨てられていました



4世紀（古墳時代）の土器

Point!
裏面に墨が付着しています



9世紀（平安時代）の土器



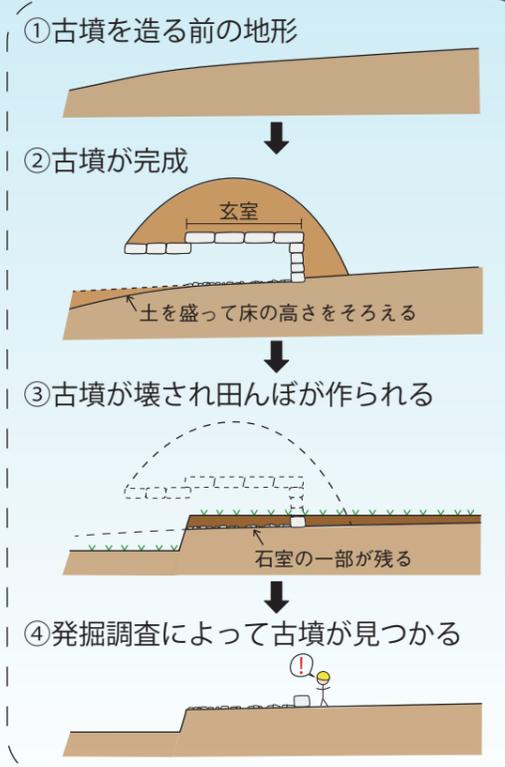
裏

3 今回の調査でわかったこと

① 6世紀末の横穴式石室を発見しました。石室の規模は小型で、副葬品も比較的簡素であることから、村の有力な立場にあった人物が埋葬されていたと考えられます。

② 窪地からは、縄文時代から鎌倉時代にかけての遺物が出土しました。その中に古代の土馬や墨書土器などがあり、古代丹後国分寺との関連も考えられます。

③ 今回の調査地は、14世紀に再興した中世丹後国分寺の寺域のすぐ北西にあたります。過去の調査では、15世紀の火葬墓かそうぼも見つかっており、丹後国分寺周辺の土地利用の変遷が明らかとなりました。



調査地の土地利用の過程（イメージ）

国分遺跡

第13次調査現地説明会資料

日時：令和7年7月13日（日）

京都府教育委員会



1 国分遺跡ってどんな遺跡??

国分遺跡（宮津市国分）は、縄文時代から中世にかけての遺跡で、史跡丹後国分寺跡を含む約12.6haの広さです。これまでの調査で、中世の火葬墓や、中世丹後国分寺に関連する柵や井戸などが見つっています。

今回、京都府立丹後郷土資料館リニューアルに伴う駐車場整備に先立ち、約400㎡を発掘調査しました。

調査の結果、横穴式石室1基と窪地を検出し、縄文時代から中世にかけての遺物が出土しました。



調査地の位置と周辺の調査 (1:1500)

2 調査における新発見!!



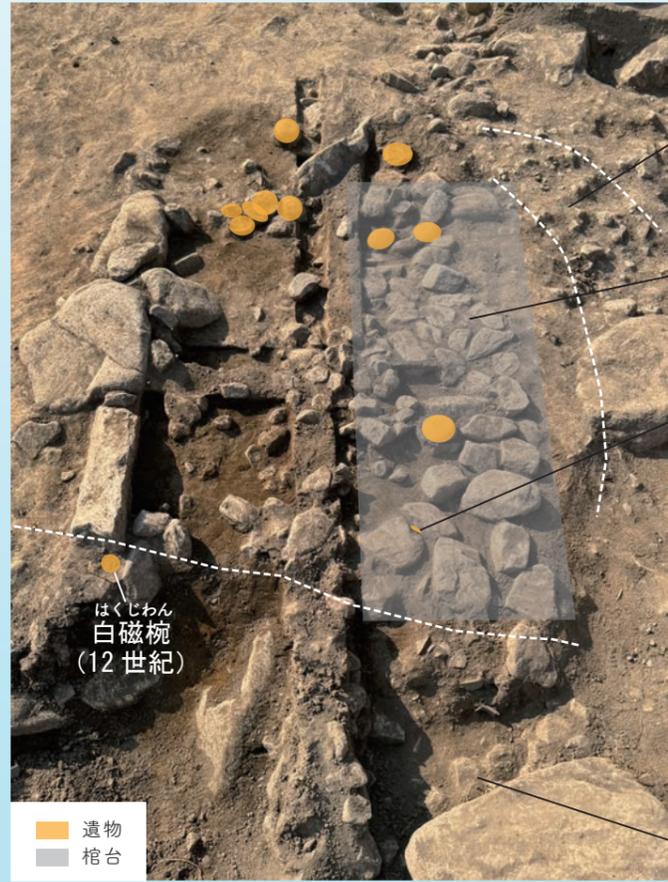
調査地の全景 (1:200)

未知の古墳!! ~国分岡田古墳~



横穴式石室を発見し、6世紀末頃に古墳が造られていたことがわかりました。古墳本体は、中世に大きく壊されており、石室の一部のうち、遺体を納める空間（玄室）しか残っていませんでした。石室の大きさは、幅約2.0m、長さ約3.0m以上です。石室の入口は天橋立（南東）に向かって開いており、眺望を意識してつくられた古墳であったのかもしれませんが。

石室内の片側には礫を敷いた部分があり、遺体を置く台であったと推測できます。窯で焼かれた器（須恵器）や鉄製の矢じり（鉄鏃）、小刀などが副葬されていました。



横穴式石室 (南東から撮影)

石材を抜き取った痕跡
: 本来はこの位置にも石室の石材がありました、石室を壊した際に抜き取られ、痕跡だけが見つかりました。

遺体を置く台
: 石を敷いて遺体を置いていたと考えられます。2点横並びになっている土器は、遺体の頭の下に枕として置かれていたと考えられます。

鉄製の矢じり
: 当初は矢の先に装着し副葬されたと推測されます。古墳には武具を副葬する事例がよくみられます。



棺台の上でみつかった矢じり (大きさは実物の半分)

中世の田の跡
: 中世に田んぼを作った際に石室の南側が壊されたと考えられます。田んぼの石組から12世紀の白磁碗の破片が出土しました。



須恵器が出土した様子 (いずれも東から撮影)

